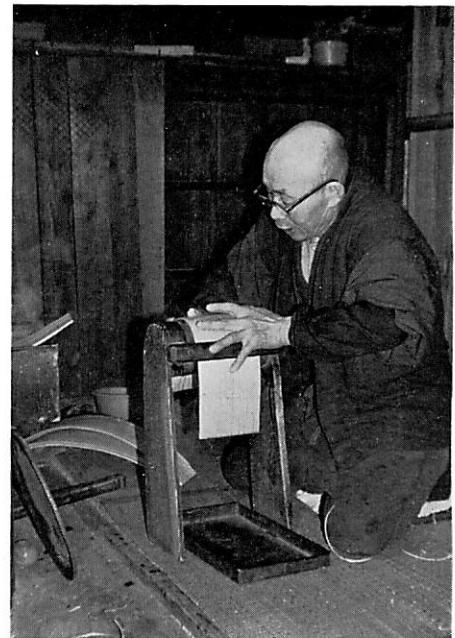


曲物製作技術の調査

平城宮跡発掘調査部

現存する伝統的な木工技術は、古代の木工技術を復原するうえに重要な手がかりとなるものであるが、機械化の進行にともない、いまや、ほとんど忘れ去られようとしている。平城宮跡発掘調査部考古第1調査室と飛鳥藤原宮跡発掘調査室は、その詳細な記録作成を計画し、第一着手として、奈良県吉野郡天川村洞川、橋田由太郎氏方において、曲物作り技術の調査をおこなった。

曲物容器は、湯にひたしてやわらかくした側板を曲げ、カバ（桜の樹皮）でとじ合せたのち、別に用意した底板をはめこんで作る。杓作りの全工程は別表のように約30工程にわかれ、使用する工具は数十種にのぼる。橋田氏方では、ローラー等の近代的な用具を用いず、また縦引鋸や台ガンナをほとんど使わない古い技法が見られた。調査は来年度も継続する予定である。



第1図 曲物の製作

（横山浩一・黒崎直）

曲物の製作工程

側 桧 板 目

筏採一切断一荒ワリ一
ハナトリー板ヘギー削り一乾燥一水浸一仕上げ削り一ハナカキマゲ一
桜 樹枝
カバトリークセナオシ一乾燥一
トモウチ一乾燥一1枚ドリートモウチ一乾燥一ソコ削り一

底 杉 柄 目

乾燥一スイークチガワー
カバヒキ一切断
ソコアワセ
ガワスリ
削り一切断タタキ
ソコ入レ一完成